

看護大からこんにちば

「ワクチンで防げる 病気があります」

私たちの身の回りには、とてもたくさん感染症が存在します。その中でも、ワクチンを接種することで防げる感染症のことを「VPD」と呼びますが、ご存じですか。

「VPD」とは次の単語の略です。

V = Vaccine = ワクチン

P = Preventable = 防げる

D = Diseases = 病気

この「VPD = ワクチンで防げる病気」は、まだなじみのない言葉かもしれませんが、ワクチンを接種することで防げる病気が「ある」ということを知らず、接種しなかったために感染し、重症化してしまうのは、大変もったいないことだと思います。

ワクチンとは、感染症の原因となる細菌やウイルスなどの病原性を弱めたものや、毒素を無毒化したものです。ワクチンを接種すると、抗体が身体の中で作られます。この

抗体は病原体が身体に侵入したとき、集中的に病原体を攻撃する役割があるため、感染や発症、重症化を予防することができまます。ただし、1つのワクチンで1つの感染症しか予防することができないため、予防したい感染症の種類に分だけワクチンの接種が必要

です。ワクチンを接種した後に、高熱や脳炎を起こしたという

ニュースが流れることがあります。そのたびに、ワクチンを打つと副反応が怖いと思う方もいるかもしれませんが、しかし、ワクチンが原因と特定できる重い副反応は少なく、さまざまな状況が重なって起こった身体症状が、たまたま接種後に発症した可能性が高いとも言われています。実際には、接種した場所が赤く腫れることや、少し熱が出る程度の軽い副反応がほとんどです。ただ、アレルギー体質の方は、主治医に相談することをお勧めします。

今回は「VPD」について説明してきましたが、ワクチ

ンを接種する大切な目的は3つあります。1つめは「自分がかからないため」、2つめは「症状を軽くするため」、3つめは「まわりの人にうつさないため」です。ワクチンの接種は、自分の健康のためにはもちろんのこと、家族の健康にもつながります。みなさんがワクチンで防げる病気について、考えるきっかけの一助になれば幸いです。

ワクチンで防げる主な病気

B型肝炎	ポリオ	インフルエンザ
ロタウイルス感染症	結核	A型肝炎
ヒブ感染症	麻疹(はしか)	黄熱病
肺炎球菌感染症	風疹	狂犬病
ジフテリア	おたふくかぜ	髄膜炎菌感染症
破傷風	みずぼうそう	ヒトパピローマウイルス感染
百日咳	日本脳炎	

新潟県立看護大学

臨床看護学領域

小児看護学

助教 山田真衣